

## 科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 22 年 2 月 10 日（水）10：00～12：10
- 場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室
- 出席者 川端科学技術政策担当大臣、津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、藤田統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官
- 議事概要

### 議題 1. 川端科学技術政策担当大臣と有識者議員との意見交換

- (相澤議員) ◇ 新政権になり、総合科学技術会議の運営が革新的に変化した。具体的には、①3 役と有識者議員との連携の強化、②政務 3 役レベルで意思疎通が行われることによる府省間の壁の克服、③公開制、透明性の向上による科学・技術と社会とのつながりの増加、の 3 点。
- (奥村議員) ◇ 科学・技術政策では、これまで 15 年間で約 60 兆投入していることになるが、実績として何を出してきたかという観点から本当に国民に説明責任を果たせるのか。第 4 期基本計画に向けて、従来と変えること、変えてはいけないことを再認識すべき。PDCA サイクルで見れば、改善すべきところは P と C ではないか。
- (本庶議員) ◇ これまでの 5 年ベースでの展望（基本計画）は総花的で実行が必ずしも伴っていない。財政と実行可能なプランニングの両輪が必要。  
ファンディングエージェンシーの強化が必要。ある程度整理するにしても、ミッションに応じて複数必要。ただし、各省にぶら下げるのではなく、科学技術戦略本部（仮称）の下に置くことも検討すべき。大学・独法の見直しに当たっては、研究者にインセンティブを与える方向での検討が必要。
- (白石議員) ◇ 優先順位をつける仕組みが重要であり、基本計画とは別に、エッジのあるものを政治的リーダーシップの下で打ち出すべき。  
評価はいろいろなやり方があり、それによって基礎研究が重視される、基盤研究が重視される、応用研究が重視されるということが決まってくるという印象がある。そのいくつかの評価の組み合わせが非常に重要である。  
ファンディングエージェンシーの間の競争の確保が必要であり、あまり統合すべきではない。むしろ様々なミッションをもったファンディングエージェンシーの間で競争させる方がよい。  
イノベーションが重要であり、ファンディングエージェンシーの資金の一定比率をイノベーションにつけるようにしてはどうか。
- (今榮議員) ◇ 国民に科学が浸透していない。科学教育システムを改善する必要がある。
- (青木議員) ◇ 「パイを大きくすること」（効率政策）と「パイを分けること」（分配政策）を区別する必要がある。科学・技術政策は効率政策であり、その観点から、例えば、院生へのサポートも将来への投資であり、効率政策としての位置付けであることを

明確にすべき。

(中鉢議員) ◇ 国民から見れば、優先順位をつけることに加え、大学など実際に研究を行う研究体制をしっかりしてほしいという思いがあるのではないか。「こう変える」という大きなメッセージが必要。

また、当面の重点としては、新成長戦略にあるグリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションに反対する人はいないが、その先が見えない不安がある。中長期的に、科学・技術の力で日本をどこに導こうとしているのかを明確に示すべき。

(金澤議員) ◇ 独立行政法人の見直しは、全てを一律に扱うのではなく、科学・技術の重要性も十分勘案し、各独法の機能等を把握した上で判断すべき。

現在は、教育の中の最も大事な初等中等教育のところにはほとんどノータッチだが、高等教育、産業界へのテコ入れも含め、総合科学技術会議でどこまで扱うかということを検討すべきである。

総合科学技術会議の位置づけとしては、府省間の壁を越えた調整だけではなく、各省でやろうとしていることを早めに聞いて、良いものに変えていく機能があってもよい。また、財務省との関わりを常に持ちながら進めていくことが必要。

(川端大臣) ◇ いま出された多くの課題は共通認識である。国としてどのような理念・組織でどのようなことをすべきかをまとめていきたい。研究開発独法については、個々の特性を踏まえて判断していくことになる。

(奥村議員) ◇ 英国では、大学等における研究の評価の4割をイノベーションの要素で行うことを検討している(社会的・経済的インパクト25%、マネジメント15%)。

(白石議員) ◇ 学科単位の評価が重要。米国では学科単位で評価が行われ、学科単位で競争している。また、日本では、若手研究者は厳しく評価されているが、年寄りには評価されていない。若手研究者の不満の多くはここにあるのではないか。

(本庶議員) ◇ 大学改革と言われるが、現実には変化していない。医学系は、患者による評価があるが、工学系は企業との接点もなく評価されない環境にあるのではないか。

(相澤議員) ◇ 科学・技術政策においては、府省間にまたがる横断的課題を、壁を克服しつつ解決することが重要。そのため政務3役レベルで府省を超えて議論していただく仕組みが重要

(川端大臣) ◇ そういう意味で、アクション・プランは大変挑戦的な取組。

(相澤議員) ◇ アクション・プランもどこかの段階で政務3役レベルの議論を行っていただきたい。

(中鉢議員) ◇ アクション・プランでシナリオを作っても、予算をつける財務省と実行に当たる各省庁がいる。実行の段階で崩れることがないように、制度的担保が必要ではないか。

総合科学技術会議のスコープとしては、教育、産業政策にも当然に踏み込むべきだが、各省庁との関係も出てくる。

企業、政治も大きく変わった中で、大学は何が変わったか見えない。大きな変革を行わなければ、国民は納得しないのではないか。

(相澤議員) ◇ 新しい組織の対象は、科学と技術がメインとなり、イノベーション、また、人材育成という観点からの教育も対象となるのではないか。

(白石議員) ◇ 中学校以上の理科教育は対象にすべき。

- (金澤議員) ◇ 科学技術リテラシーも対象となる。
- (川端大臣) ◇ 戦略的に科学・技術をどうするか肉づけ、配分、財源の担保は必要。その立場から、教育と産業の問題については、対象ではないが提言をする立場になるのではないか。我が国には、大きな課題（例えば、月に行きたい）があつて、そのために欠落している技術を前に進めていくという考え方がなかったのではないか。

## **議題2. 2011年度大統領予算教書における科学技術関連予算の概要**

### **<科学技術振興機構説明>**

- (奥村議員) ◇ 実際の予算の決定後にも、議論の経過を含めて情報を報告してほしい。
- (津村政務官) ◇ 研究開発費の対GDP比を3%にするという目標については、日本の数字とのベースの違いを理解して使う必要がある。

## **議題3. 科学・技術政策上の当面の重要課題（骨子）**

### **<相澤議員説明>**

- (本庶議員) ◇ P5の「世界に開かれた地域科学技術基盤の強化」の部分に「国際競争力」という観点を加えるべき。
- (中鉢議員) ◇ 3.(2)の「戦略的基盤技術・基幹技術の研究開発の推進」というタイトルについては、「産業競争力強化のための」という表現を表題に入れた方がわかりやすいのではないか。
- (津村政務官) ◇ 無駄な修飾語を削って、国民にわかりやすい表現にすべき。
- (相澤議員) ◇ 内容については了解いただいたこととし、表現については一任いただき、来週決定いただくこととしたい。

## **議題4. 科学・技術重要施策アクション・プランの策定について**

### **<須藤参事官説明>**

- (本庶議員) ◇ どういう切り分け方をするかということを示す例示は重要であり、再検討すべき。
- (津村政務官) ◇ 例示が重要であり、よく議論する必要があるので、来週再度この場に出していただきたい。関係省庁の副大臣に、できる限り自分が説明に行つてアクション・プランの策定の協力をお願いしたいと考えている。

## **議題5. 最先端・次世代研究開発支援プログラムについて**

### **<相澤議員説明>**

- (相澤議員) ◇ プ1については、本案で決定いただいたこととする。

## **議題6. 「英国の情報通信分野等の科学技術政策に関する調査」英国出張報告**

＜奥村議員説明＞

（特に意見なし）

## **議題7. その他**

（津村政務官）◇ 総合科学技術会議、IT 戦略本部、知的財産戦略本部については、それぞれ関連性を持っているので、3会議の有識者を集めた意見交換の場を設けたい。

科学技術リテラシーの部分は相当工夫の余地があると考えている。アイデアとして、①国会議員と研究者がペアを組んでのシャドーイング、②大臣・有識者議員会合の国会議員による傍聴、③大臣・有識者議員会合の地方開催（地方の意見を聴く会）などが考えられるが、各議員からもリテラシーの観点からアイデアをいただきたい。

（以 上）